



将来は大型種パフォーマンスも

クジラショー公開から13年

クジラショーに参加する3種のゴンドウクジラの仲間。右からコビレゴンドウ、ハナゴンドウ、オキゴンドウ

大地町

トレーナーの合図で3頭のゴンドウクジラが勢いよくジャンプし、その巨体が宙に現れました。熊野灘の小型のクジラを紹介するクジラショーの一場面です。頭が丸く、ずんぐりとした体形のコビレゴンドウ＝写真右、体表が花びら模様に見えるハナゴンドウ＝同中央、全身黒色で、細長い体形のオキゴンドウ＝同左。

実は、この3種のジャンプを披露したのは約2年ぶりのこと。体調不良や訓練の遅延が主な原因だったのですが、コロナ禍に伴う臨時休館中に調整することができ、ようやくショー最大の見せ場が返ってきました。

クジラショーが最初に公開されたのは2007（平成19）年のことで、当初は芸達者なバンドウイルカも含めた4種類のクジラの仲間を紹介するショーでした。その後、イルカショーとの差別化と、独自性を目指し、あえてゴンドウクジラだけに変え、「くじらの博物館」ならではの珍しいショーとして親しまれるようになってきました。

4歳以下の比較的小型の種をイルカと呼ぶのが慣習です。

しかし、最大体長3・8メートルのハナゴンドウはというと、日本ではクジラの仲間とされますが、英語圏では「Kisso's dolphin」と呼ばれイルカの仲間とされるなど、その区別は実に曖昧なものです。よく「クジラもショーができるんだ！」と驚かれますが、違いは体の大きさとくらいなので、基本的な飼育や訓練の方法もイルカとほとんど変わらないのです。

クジラショーが当館の名称物となって13年。いずれは誰が見ても「クジラだ！」と思ってもらえるような大型種のパフォーマンスをお見せしたいものです。（大地町立くじらの博物館 副館長 稲森大樹）